

恐ろしやコロナ！フロア入所者の9割、職員の7割が感染！

～クラスター発生の経験から学んだこと～

施設名：介護老人保健施設 エメロードてだこ苑
発表者：津嘉山 晃

【はじめに】

当老健施設の一部フロアにおいて、1人の89歳の女性入所者が、令和4年8月13日の朝食後に顔色不良と食物残渣を多量に嘔吐された。いつもの如く当苑でのルーチンとして食止め・点滴・血液検査がなされた。その時点で施設の入所者の中にはコロナウイルス罹患者は誰も居なかった。念のために抗原検査もしておこうと言うことで検査を実施した。しかし、予想外に結果は擬陽性の判定が出た。即座に個室隔離を行いマニュアルに沿った感染症対策がなされた。

【事例紹介】

その日の朝9時の時点では36.7℃と平熱であったにも関わらず、昼食前には急に39.2℃の高熱となった。翌日の8月14日に再度抗原検査を行った所、明らかに陽性判定となった。急遽、その方との濃厚接触者に当たる18人の入所者に対して8月14日当日抗原検査を実施した所、全員陽性の判定がなされた。翌日の8月15日には、同じフロア40人の入所者全員に対してPCR検査を実施した。その結果、40人中31人が陽性となり残りの9人が陰性であった。しかし、4日以内の抗原検査で9人中6人が後日陽性となり、最終的には入所者40人中37人が陽性となり約93%がコロナウイルスに罹患した。1名の方は症状がなく、抗原検査で陰性だったが、その日のPCR検査では陽性であった入所者が1人おられた。

症状としては、最も多いのが発熱で37人中31人(84%)、その他の症状として咳・脱力・嘔吐がそれぞれ3人の方に出現した。罹患したスタッフの症状としては、発熱の次には、咽頭痛・咳・倦怠感であった。

【考察】

罹患者に対しては、抗ウイルス薬のラゲブリオカプセルを投薬する為、担当者で調整を行い、その日或いは翌日までには内服治療が開始され、やはり専用の治療により回復が早い印象を受けた。殆どの方が、10日間の観察期間で回復された。し

かし、残念ながら罹患後2日目で他界された方が1人。感染に伴い回復に至らず他界された方も1人居られた。クラスターが発生するといった感染力の強さ、死亡者が実際に出るなどコロナウイルスの恐ろしさをスタッフ一同実感した。

37人の罹患者の内、3人の方は、家族からの同意が得られず治療を行うことが出来なかった。宗教上の理由で投薬出来なかった95歳の女性は、5日間発熱が持続しその間、点滴が続行され寝たきり状態が持続した為、かなり認知症が悪化されたが、運よく現時点では殆ど元に戻っている。

クラスター発生中の看護師の役割として主だった事として、半数以上の発熱者に対しては、発熱の管理として解熱剤投与やクーリングの更新、基本的に1日2本の点滴の管理で点滴スタンドも輸液事態も不足していた。

看護師・介護士とも数少ない人数で対応していかなければならない為、休憩時間や食事をする時間も無い等、忙しい日々が続いた。目の前の実施すべきケアを優先する為、記録する時間も無く最小限の記録に留まらざるを得ない状態であった。

忙しい日々をどうにか乗り切っていた要因としては、1人ひとりのスタッフの責任感や専門職としても意識、また部署・職種の垣根を超えた職員間の協力体制があった事でこの災難を乗り越えていくことができたと思われる。

【まとめ】

10月22日現在、日本全体での罹患率は約17%であるのに対し沖縄県における陽性者の状況は、人口約150万人中約50万人、3人に1人(約35%)が罹患している。死亡累計数も775人。

沖縄県の罹患率が日本全体の約2倍と高い為か、現時点での10万人当たりの陽性者は全国最少となり安堵するこの頃である。

しかし、一度罹患しても2~3回罹患する場合もあると言われるこのコロナウイルスは、いつ収束するのか？また、同様なクラスターが再度発生するのか？その日に備えた、日頃の感染対策と協力体制で今後も乗り越えて行きたい。